

●平成21年度推薦入学についての講評等

1 小論文

(1) 方法

「新聞の社説程度の資料」を提示した上で、「生徒の考え」を問う。

本学で学ぶ学生には、日頃から新聞の社説程度の文章に慣れ、「人間・社会に関する興味」を持ってもらいたい。

そのような資料を提示した上で、与えられた課題に対し、生徒が「主体的にどのように取り組むか」を評価した。

(2) 結果に関する講評

自分の意見をきちんと主張できていた論文については良い評価が下されている。

その一方で、課題に答えていない論文や最後まで書き終わらなかった論文、論点がバラバラで、論理性に乏しい論文、内容が抽象的で明確な意見が書かれていない論文、極端に字数が足りないまたはオーバーしている論文などは、評価が低くなる。

推薦入学における小論文の評価の観点は、「与えられた課題に対し、生徒が主体的にどのように取り組むか」という点である。資料をよく読み、与えられた課題に対して自分なりの意見を積極的に主張して欲しい。

また、まとまりのない文章では、意見が伝わらない。自分の意見を持ち、言いたいことが伝わるようなまとまりのある文章を書けるようにご指導いただきたい。

2 グループ面接

(1) 方法

事前（受験票送付の際）に、課題に関する「キーワード」を提示し、キーワードについて、「十分に勉強してきたという前提」で、生徒一人一人がグループ面接の課題に「主体的にどのように参加するか」という観点で評価した。

※平成20年度のキーワード・・・「代替燃料、食糧危機、グローバル経済、京都議定書」の4つ

※平成21年度のキーワード・・・「国民投票法、民法第4条、taspo（タスポ）、モラトリアム」の4つ

(注) キーワードは、手近な資料（「imidas」、「現代用語の基礎知識」等）で調べられるものとするので、十分勉強して欲しい。

高校の先生からの質問で、「キーワードを調べる際に、教員が相談にのってもよいか。」と尋ねられたら、「構わない。」と回答する。

(2) 結果に関する講評

事前に提示したキーワードを十分に勉強してきたと思われる生徒は、討論にも積極的に参加し、生産的な意見を述べる事ができたようである。キーワードの勉強が不十分であった生徒は自分の意見を提示することができず、討論にも積極的に参加できなかったようである。ただし、キーワードについて十分勉強し生産的な意見を持っていても、それを声に出して発言しなければ評価できない。

また、グループの他のメンバーへの配慮を欠いた発表態度や、他のメンバーの意見をあまり聞かないような態度が見られると評価が低くなる。

全体としては、討論に主体的、積極的に参加しようとする姿勢を見せて欲しい。

以上、推薦入学の趣旨をご理解の上、ご指導いただきたい。

3 個人面接

(1) 方法

自己推薦書と調査書をもとに面接を実施した。

※自己推薦書のアピール・ポイント（アピール・ポイントとは、特別な活動だけをいうのではなく、受験生の人柄がわかるような事柄も指す。例えば、雨の日も風の日も3年間毎日遠いところから自転車で通学した等。）について必ず質問した。

※入学後の希望をカリキュラムとの関連で質問した。

（注）カリキュラムを基本的に理解していただきたいので、大学案内はよく読んでおいて欲しい。

(2) 結果に関する講評

アピール・ポイントについて質問したが、生徒は高校生活をきちんと振り返った上で、自分自身を適切に表現していた。また、生徒は本学のカリキュラムについて理解した上で、面接に臨んでいた。これらの点は、高校側のご指導の成果である。今後のご指導願いたい。

一方で、質問に的確に答えられない生徒もみられた。特に、カリキュラムの内容を十分に理解していない生徒もおり、カリキュラムの理解は本人の将来と密接に関わるため、本学の教育理念、カリキュラムについても、引き続きご指導いただきたい。

また、準備したことだけしか話せないというような生徒もおり、質問の内容をよく理解して、落ち着いて答えられるようご指導をいただきたい。